



○全国植樹祭の招致（平成22年神奈川県内での実施内定）

○神奈川県水源環境保全税を活用した里山・森林整備

- [市全体] 里地里山の保全再生による地域社会の発展**
 —登録制度・研修制度・情報発信・水源保全・普及啓発活動・学校教育や生涯学習との連携—
- 登録制度(ボランティア、フィールドリーダー、活動フィールド)
 - 研修制度(ボランティア、フィールドリーダー、ステップアップ)
 - バイオマスの検討
 - はだの版里山林整備指針の策定
 - 里山保全管理手法の検討
 - 地域内外との情報交流
 - 情報発信
 - 推進体制の構築
 - 学校教育・生涯学習との連携
 - 市民全体への普及啓発活動の実施
 - 荒廃農地対策の実施
 - 水源の保全
 - 谷戸の保全

- [上エリア] 水田湿地の環境と生態系の保全再生**
 —生き物の里づくり—
- 水田・湿地環境の再生
 - 四十八瀬川周辺の水田活用
 - 里山・竹林整備と仕組みづくり
 - 獣害対策としての里山整備
 - 生き物観察による啓発と交流
 - 都市住民の里地里山管理体験

- [渋沢丘陵エリア] 多様な主体による二次林整備と交流**
- 二次林の多様な整備モデルづくり
 - 散策道の延長と周辺整備の検討
 - 小学校の里地里山環境学習の推進
 - 多様な主体の参画と協働

- [北・西エリア] 里山保全再生拠点**
 —研修拠点、ヤマビル・獣害対策—
- ヤマビル・獣害対策としての里山整備
 - バイオマスの検討
 - 表丹沢野外活動センターの活用
 - 里山ふれあいセンターの活用
 - 水源の保全
 - 保全活用研修の実施
 - 情報発信機能の充実

- [東・大根エリア] 農家、集落を軸とする保全再生**
- 里山支援モデル事業による里山づくり
 - 集落周辺の藪の整備(獣害、荒廃農地対策)
 - 養毛自然観察の森の活用
 - 都市住民が関わった荒廃農地の解消
 - 解消後の農地利用
 - 観光農園の拡大と活用の検討
 - 田原ふるさと公園の活用
 - 歴史文化施設の活用

凡例 里山 水、里地 人、情報
 ○→● 平成18年度に取り組みを開始した
 ● 平成18年度時点で一部でも取り組みを行っている

地域戦略 [予定表] 改訂版

平成19年2月改訂

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度以降
全国植樹祭	招致活動	開催地決定	準備		4月～6月 全国植樹祭開催	
水源保全		神奈川県水源環境保全税開始 水源環境保全税を活用した森林・里山整備【はだの森づくり1世紀構想】				
		40ha新規整備	維持保全 40ha新規整備	維持保全 40ha新規整備	維持保全 40ha新規整備	維持保全 40ha新規整備
里山保全	諸団体による里山整備の継続					
	-----秦野市による団体助成----- 農村景観・自然環境保全パイロット事業による活動助成-----	水源環境保全税を財源とした団体助成				
	普及啓発・担い手育成					
	ボランティア養成研修 里山整備の手引き作成	里山の日				
	里山資源の活用					
		堆肥場造成	落ち葉堆肥づくり・堆肥の利用			
			市内里山からバイオマス資源を野外センターのチップボイラー燃料として活用			
表丹沢 野外活動センター		オープン	表丹沢野外活動センターの活用			
			活動プログラムにおける地元の人材や農産物等の活用			
生き物の里	生き物の里の保全整備					
	指定地の保全活動の推進	指定地の拡充(全体で10箇所程度)、保全				
農地等	はだの都市農業支援センター					
	地域営農の活性化(モデル事業、体制づくり)、担い手の育成・確保(市民農業塾、市民グループ支援)					
	遊休農地活用、獣害対策、ブランド化、観光農業の推進					
	荒廃農地の解消と活用、市民農園の拡充					
体制の整備	(仮称)はだの里地里山モデル事業推進協議会					
	はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会設立 上地区里地里山保全再生モデル事業連絡協議会設立					